

令和3年度 第1回学校評価アンケート（生徒用）

【評価】 A：あてはまる（満足度80%以上） B：まあまああてはまる（満足度60%以上～80%未満）  
C：あまりあてはまらない（満足度40%以上～60%未満） D：全くあてはまらない（40%未満）

分類	番号	評価項目	A	B	C	D
授業に向かう姿勢	①	自分の考えを伝えるとき、聞き手がわかりやすいようにしようと意識している。	24	58	14	4
	②	仲間の考えと自分の考えとの共通点や相違点を比べながら聞いている。	31	48	18	4
	③	仲間の考えを自分の考えを見直すための参考にしている。	42	43	12	3
	④	仲間と関わったり話し合ったりして積極的に課題に取り組んでいる。	38	45	13	4
学級に対する姿勢	⑤	日頃から「級訓」「学級目標」を意識した生活を心がけている。	20	51	22	7
	⑥	行事や活動毎に「級訓」「学級目標」をふまえた振り返りや目標の見直しをしている。	13	44	31	13
	⑦	学級をよりよくするため自分の長所や持ち味を生かした行動を心がけている。	26	40	26	8
	⑧	学級をよりよくするため仲間のよさを見つけたり認めたりしながら活動している	37	47	13	3
学校づくりに対する姿勢	⑨	集団（学級・学年・学校）をよりよくするために、積極的に行動したり提案したりしようとしている。	20	38	30	12
	⑩	集団（学級・学年・学校）のために動いている仲間の考えに参加したり協力したりしている。	32	47	17	4
	⑪	集団（学級・学年・学校）のためにという気持ちをもって係活動や委員会活動に取り組んでいる。	41	39	15	5
	⑫	室長会や委員会、生徒会の活動に対して、積極的に参加したり協力している。	28	39	22	11
地域との協働	⑬	地域の諸団体が実施する活動に積極的に参加している。（街路樹ボラ・防災訓練など）	8	27	36	29
	⑭	地域のさまざまな方々が学校を支えてくれていると理解している。	47	40	9	4
	⑮	自分は町づくりの一員としての自覚をもち、地域活動に主体的に関わりたいたいと思っている。	11	38	35	17

令和3年度 第1回学校評価アンケート（職員用）

【評価】 A：あてはまる（満足度80%以上） B：まあまああてはまる（満足度60%以上～80%未満）  
C：あまりあてはまらない（満足度40%以上～60%未満） D：全くあてはまらない（40%未満）

分類	番号	評価項目	A	B	C	D
授業力の向上	①	ともに学び合うよさを実感できる学習集団の構築のために新南中学習スタンダードを意識したはたらきかけに努めている。	4	68	28	0
	②	「学びの展開」を意図した授業づくりに努めている。	8	76	16	0
	③	積極的に公開授業を参観したり「授業メモ」や「窓」を読んだりして「目指す姿」の理解に努めている。	32	56	12	0
	④	「窓」を活用して生徒とともに望ましい学習集団像について共有することに心がけている。	12	48	36	4
	⑤	ICT機器を活用した授業づくりを行っている。	36	44	12	8
学級経営力向上	⑥	生徒一人一人を尊重し、個性を伸ばす指導や支援に努めている。	44	56	0	0
	⑦	生徒一人一人の特性が生きるように、適材適所の役割分担や意図的な活動場面の設定に努めている。	24	72	4	0
	⑧	生徒会企画や室長会企画を学級集団の成長の機会ととらえ、生徒に意識的に呼びかけたりはたらきかけたりしている。	32	56	12	0
	⑨	活動毎に「級訓」「学級目標」に沿ったふり返りと目標の更新に努めている。	23	59	18	0
課題解決力向上	⑩	生徒の主体性を発揮するファシリテーターの役割を自覚した指導をしている。	8	60	32	0
	⑪	生徒によりよい学級(幹・鞭)づくりをしていこうと思わせる機会を保障している。	32	56	12	0
	⑫	リーダーの望ましい姿について具体的に示し、役割を理解しやすくしている。	16	60	24	0
	⑬	フォロワーの意義を示し、リーダーと協調しながら活動できるよう支援している。	21	67	13	0
地域との協働	⑭	地域の諸団体が実施する活動に積極的に参加している。	8	32	20	40
	⑮	地域行事へ参加意欲が高まるように、意義や必要性、関わり方を理解させている。	4	40	36	20
	⑯	地域とのかかわりを意識させる指導や活動を教育課程に位置づけている。	4	44	40	12
特別支援	⑰	支援を必要とする生徒理解に努め、保護者と積極的に連携を図っている。	29	50	17	4
	⑱	各適応指導教室利用生徒について担当者との連携ができています。	24	72	4	0
効率推進	⑲	率先して在校時間縮減に向けて業務の見直しを行い、縮減につなげている。	4	48	40	8
	⑳	在校時間を縮減するために年休取得を積極的に行い、生活の見直しが図られている。	4	40	44	12